

呉市集落排水事業経営計画の策定について

1 策定に当たって

本市の集落排水事業は、旧合併各町が策定していた汚水処理計画に基づき事業を推進していましたが、合併時にこれらを集約した上で合併建設計画を策定し整備を進めています。

しかし、人口減少等により収入の根幹である集落排水処理施設使用料（以下「使用料」といいます。）の減少が見込まれる一方で、供用開始地区の増加に伴い、施設の維持管理費等の支出が増加し、一層厳しい経営環境となる見込みです。

このような中、国は、各事業体に対し、将来にわたってサービスの提供を安定的に継続することが可能となるよう、経営の基本計画である「経営戦略」を策定し公表することを求め、一般会計からの繰出しのうち、集落排水事業の高資本費対策に要する経費に係る地方交付税措置については、平成28年度中の策定を要件とする予定であることから、中長期の視点に立った事業計画である「呉市集落排水事業経営計画」（計画期間：平成29年度から平成38年度の10年間）を策定するものです。

2 事業概要

(1) 現状と課題

ア 区域内戸数及び人口の推移

過去3年間の区域内の戸数及び人口は減少傾向にあり、今後も減少する見込みです。

Table with 4 columns: 区分, 平成25年度末, 平成26年度末, 平成27年度末. Rows: 区域内戸数, 区域内人口.

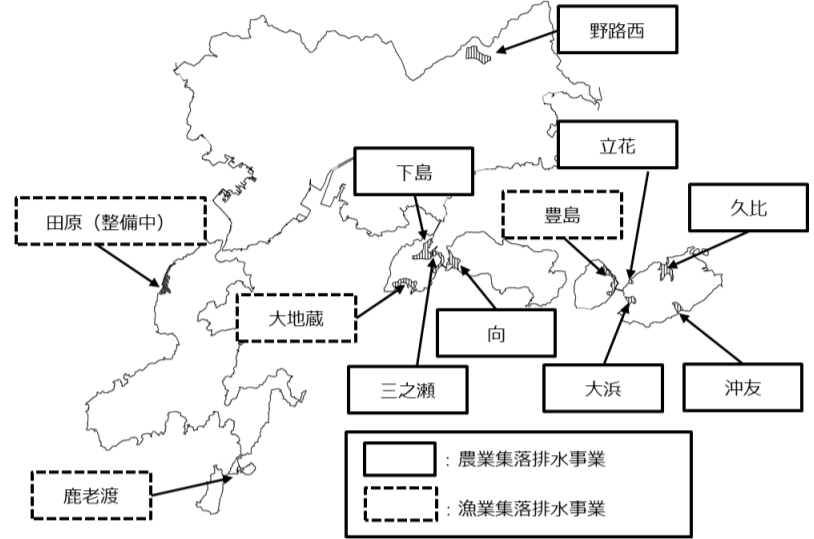
※ 整備中の音戸町田原地区は含んでいません。

イ 現在の状況

Table with 4 columns: 区分, 平成27年度末, 区分, 平成27年度末. Rows: 区域内戸数 (A), 区域内人口, 接続戸数 (B), 接続率 (B)/(A), 年間総処理水量, 年間有収水量.

※ 整備中の音戸町田原地区は含んでいません。

整備状況図（平成28年3月31日現在）



ウ 事業の収支

歳入は、平成25年度の豊浜町豊島地区の供用開始により使用料収入は増加していますが、使用料収入を除いた歳入は減少傾向にあります。

一方、歳出は、施設建設費は減少していますが、区域の拡大により維持管理費等は増加しています。

損失補填である一般会計繰入金は、歳入の大部分を占める状況となっています。

エ 今後の課題

供用開始から約20年間が経過しており、施設の老朽化が懸念されていることや供用開始区域の拡大により維持管理費等が増加します。

今後も事業を継続するためには、一般会計からの負担を求めざるを得ませんが、一般会計の負担を軽減し、また、将来も継続してサービスを提供していくため、更なる事業運営の効率化を図るなど、経営基盤を強化する必要があります。

【事業の収支の推移】

(単位:百万円)

Table showing revenue and expenditure trends from 23rd to 27th fiscal years. Includes categories like 歳入 (Revenue), 歳出 (Expenditure), and 収支差引 (Balance).

3 取組

(1) 施設の共同化・最適化

現在整備中の音戸町田原地区については、処理場を設置せず、最寄りの特定環境保全公共下水道事業で整備済みの処理場に接続し、共同化・最適化を図ります。

(2) 長寿命化の取組

計画期間内における集落排水事業の施設整備は、音戸町田原地区で完了する予定で、今後は、施設整備から維持管理に重点を置いた事業運営に移行することとなります。

(3) 収入の確保

接続率の向上を図るため、未接続世帯の水洗化に向けた啓発活動を強化します。

(4) 安定した事業運営の実現

将来にわたり安定的な事業運営を実現するためには、経営状況と財政状況の明確化が必要不可欠であることから、地方公営企業法（昭和27年法律第29号）を適用し、経営の視点を重視する公営企業会計の導入について検討します。

4 財政収支計画

※28年度は決算見込額、29年度は当初予算額、30年度以降は推計額

(単位:百万円)

Large table showing financial plan from 28th to 38th fiscal years. Columns: 区分, 28年度, 29年度, 30年度, 31年度, 32年度, 33年度, 34年度, 35年度, 36年度, 37年度, 38年度, 合計. Rows: 歳入 (Revenue), 歳出 (Expenditure), 収支差引 (Balance).

※使用料については、平成30年度に策定する下水道事業の後期経営計画の中で、下水道使用料水準を検討することとしており、これに合わせ検討する予定です。